

津山謙

TSUYAMA YUZURU

サンステイ共生福祉株式会社 代表取締役社長

1973年山口県生まれ。筑波大学卒。ハーバード大学ケネディ行政大学院にて修士号(MPA)、早稲田大学大学院にて博士号(Ph.D.)を取得。2012年より10年間、国会議員政策担当秘書として国会に勤務。政策・立法実務の傍ら、2019年に障害者福祉事業をスタート。

CHALLENGER

The Extra Edge

世の中のトレンドをリードする
話題のモノ、ヒト、コトなどを紹介

関わる全ての人々の幸せを、 最大化するグループホーム運営。

日本では2005年に障害者自立支援法（現在の障害者総合支援法）が施行され、障害者福祉のより一層の充実が目指されている。中でも、国が注力するのが「障害者の地域移行」だ。「地域移行」とは、「障害を持つ人が自らの意思で選んだ地域や住まいで、自分らしい暮らしを実現すること」を意味する。「障がい」という個性もさまざまですが、すべての人は基本的な権利を有する同じ日本国民です。ある程度の身の回りのことは自分でこなせる方も多くいらっしゃいます。そうした方々への支援を適切に行うことで、地域の一員として幸せに自己実現していたら、それが地域移行の大きな目的です。

そこで立法にも関わり、以前から障がいを持つ方々の支援に強い関心を持っていた私が、障がい者様やそのご家族に本当に安心して暮らしていただけるホームをつくらうと考えたのです。

津山 命と話すのが、多様性を「誇り」と「力」に変え、誰一人取り残さない社会をつくること。現在はすでに埼玉県川越市に7棟、越谷市に2棟のグループホームを展開し、約50名の利用者の自立した暮らしを支援している。重視するのは、利用者の満足度の最大化と業務フローの効率化を同時に進め、良心的で優れた運営であるからこそ利益が生まれ、スケールしていくという王道のプロセスだ。

「利用者様のためにできることはすべて行いながらも、スタッフのサービス残業はゼロ。夏季や正月の休暇や有休消化も義務づけ、資格取得などキャリアアップできる環境も用意する。それらをすべて実現するのが私たちのチャレンジです。川越に続き越谷でも安定的な施設運営を再現可能なモデルとして確立し、今後は全国の自治体へと広げていきたいと考えています。」

関わる全員の幸せの最大化を目指して挑戦を続ける同社は、日本の障害者福祉を大きく前進させつつある。